

New Horizon 第12回 Lessons

Lesson 12-1: 様々なフレーズ⑨

1. and so on = ～など

<例> I play soccer, tennis, and so on. <私はサッカー、テニスなどをします>

【補足説明】

何かの例をあげる時によく使われるフレーズ。このままリストが続くという意味もあり、and の前には、カンマが足されることが多い。また、and so on だけでなく、and so forth という表現もある。

2. belong to ~ = ～に所属している

<例> I belong to the basketball club. <私はバスケットボール部に所属しています>

3. for dessert = デザートに

<例> What do you want for dessert? <デザートには何がいいですか>

【補足説明】

for breakfast / for lunch のように「デザートに」という場合は、for dessert となる。ただしいつも for がつくとは限らない。また、dessert は、一般的なことを言う場合は、不可算名詞だが、具体的な品や種類を指す場合は、可算名詞となる。例えば order (注文する / オーダーする) という動詞を使い order a dessert (デザートを注文する) とすると「1品デザートを注文する」という意味になる。

また、desert (sを1つ) にすると「砂漠」という意味になるので注意 (アクセントは異なる)。

4. (in) the sea = 海 (の中に・で)

<例> I see some fish in the sea. <私は海の中にいる魚が何匹か見えます>

【補足説明】

under the sea という表現もよく使われる。in the sea の場合、海面で泳いでいたり、海の中に潜っていたりすることを表すが、under the sea とすると海の中 (海の下の方) に潜っていることだけを表す (under で、「海面の下」といったイメージ)。

<例> Let's go under the sea. <海の下の方に行きましょう>

Lesson 12-2: 疑問詞④ (How ○○)

ここでは How の後に形容詞や副詞を足すことによって「どれくらい○○～ですか」という意味の疑問文を作ることができます。

【How ○○ : 基本の形】

How ○○ + 疑問文?

(どれくらい○○～ですか)

- <例> How tall is she? (彼女はどれくらい背が高いのですか)
How fast can he swim? (彼はどれくらい速く泳ぐことができますのですか)
How old are you? (あなたは何歳 (どれくらい歳を取っているの) ですか)

【疑問詞を使った疑問文の作り方】

ステップ 1: 「どれくらい○○」の部分に「**適当な単語**」を入れて疑問文を作る。

ステップ 2: 入れた「適当な単語」を **How ○○** にする。

ステップ 3: How ○○ を**文の先頭**に持ってくる。

<例 1: 彼女は、どれくらい背が高いのですか>

ステップ 1: 「どれくらい○○」の部分に「適当な単語」を入れて疑問文を作る。

「どれくらい背が高い」の部分「背が高い」に変える

→ 「彼女は背が高いですか」

_____ Is she **tall**?

ステップ 2: 入れた「適当な単語」を How ○○ にする。 tall → how tall。

_____ Is she **how tall**?

ステップ 3: How ○○ を文の先頭に持ってくる。

_____ **How tall** is she?

Lesson 12-3: 様々なフレーズ⑩

1. (a) mix of ~ = ~を混ぜたもの

<例> It is a mix of ice cream and fruit. <それはアイスクリームと果物を混ぜたものです>

〔補足説明〕

ここでは、mix は「混ぜたもの / 混合物」という名詞として使われているが、「混ぜる / 混ぜる」という動詞として使うこともできる。

<例> You can mix these two colors. <あなたはこれらの2色を混ぜることができます>

2. turn on ○○ = ○○ (電気 / 電化製品の電源) をつける

turn off ○○ = ○○ (電気 / 電化製品の電源) を消す

<例> Can you turn on the TV? <テレビをつけてくれる>

〔補足説明〕

turn on ○○/turn off ○○ の○○は、turn ○○ on/turn ○○ off と turn と on/off の間に入れて使うこともできる。しかし、○○が代名詞の場合は、turn ○○ on/turn ○○ off の形しか使えない。

<例> I cannot turn it on. (I cannot turn on it. = ×) <私はそれをつけられません>

3. help ○○ with ~ = ○○を~ (の面) で手伝う

<例> Can you help me with my homework?

<私の宿題を手伝ってくれる?>

〔補足説明〕

Can you help me with my homework? は、よく使われる形。直訳は「私を私の宿題の面で手伝ってくれる?」となる。

4. just a moment = ちょっと待って / 少し待って

<例> A: Can you help me? B: Just a moment. <A: 手伝ってくれる? B: ちょっと待って>

〔補足説明〕

「Just = ただ / ほんの」で「moment = 瞬間 / 時期 (可算名詞)」という意味。Just a moment, please. (少し待ってください) というように、please が足されることもある。

Lesson 12-4: 名詞の後や文の最後における副詞

実は、here / there といった場所を表す副詞は、名詞の後に足すことによってその名詞を修飾することができます。また、文頭に足すことができた usually / sometimes / often といった頻度を表す副詞は、実は文の最後に足されることもあります。

【名詞の後に置かれる here / there】

“here (ここに) / there (そこに・あそこに)” は、基本的には「動詞 (+目的語)」の後に置かれ動詞を説明する形で使われていました。

<例> He goes there every day. (彼はそこに毎日行きます)

しかし、実はこの here / there は、名詞の後に足して、名詞を修飾することもできます。

<例> He studies at a school there. (彼はそこにある学校で勉強しています)

<school のあとに there を置くことで「そこにある学校」という意味になっている>

【文の最後に足される usually / sometimes / often】

そして、文の途中や文頭に足すことができる usually / sometimes / often といった副詞は、実は文の最後にも足すことができます。この表現は、そこまで一般的ではないですが文章の序盤に足すことを忘れた際などに使われたりします。

<例> I play soccer with him sometimes. (私は、彼と時々サッカーをします)

<「私は彼とサッカーをします、時々ね」といったニュアンス>

She is busy usually. (彼女は、いつもは忙しいです)

<「彼女は忙しいです、いつもはね」といったニュアンス>

Lesson 12-5: 様々なフレーズ⑩

1. No problem. = 問題ないです

<例> A: Thank you. B: No problem. <A: ありがとう B: 問題ないです>

〔補足説明〕

No problem. は、Thank you. や I'm sorry. の返しや、Can you ~? など、何か依頼された時の了承を表す返事としてよく使われる。

<例> A: Can you turn off the TV? B: Sure. No problem.

<A: テレビを消してくれる? B: もちろん。問題ないよ>

2. all right = 大丈夫 / 申し分ない / 分かりました

<例> A: Thank you. B: No problem. <A: ありがとう B: 問題ないです>

〔補足説明〕

all right は、OK と同じような使われ方がされる。例えば、I'm sorry. の返しで That's all right. / That's OK ということができる。また、カジュアルな場面では、all right ではなく alright と書かれる時もある。

3. open = (お店・ドアなどが) 開く / 開ける (動)

<例> Can you open the window? <窓を開けてくれる?>

〔補足説明〕

open は「開く / 開ける」という意味以外にも「開いている」という状態を表す形容詞としてもよく使われる。例えば、お店が今営業中という場合は “It is open.” というように、形容詞として使われる（「誰かがお店を開ける」「お店がこの時間に開く」などと言いたい場合は、動詞として open が使われる）

4. be 動詞 + 一般動詞 ing = 一般動詞している

<例> I am reading a book. <私は本を読んでいます>

〔補足説明〕

現在進行形と呼ばれる形。詳しくは、後半の練習で取り上げるが、be 動詞と一般動詞の同じ文で登場する形なので要注意。use のように一般動詞の最後が e で終わる場合は、e を消して ing を足す。

<例> He is using my computer. (彼は私のパソコンを使っています)